

いちのせき

農委だより

第4号

2007

3



一関市長に要望書提出

日豪FTA交渉農産物関税
撤廃除外の要望書を提出

去る1月25日、千葉哲男農業委員会会長外3人は、今年から始まる日本とオーストラリアの自由貿易協定（FTA）の交渉において、主要農産物を関税撤廃対象から除外するよう浅井一関市長に要望書を提出しました。

内容は、牛肉、小麦、乳製品、砂糖などは、わが国においても重要な農産物であり、関税撤廃の対象になると、その影響は大きく、WTO農業交渉において上限関税阻止を求め、我が国の主張も難しくなり、米国、カナダ等から同様の関税撤廃の要請を招く恐れがあることや、現在の農政改革により、国内農業の構造改革を進め、国際競争力の強化を図るという取組が困難となり、食料の安定供給等、日本農業に与える影響が大きいことからその対象から除外するよう、国、県及び関係機関等に働きかけるよう要請したものです。

提出後の懇談では、対象となる農産物は当地方にとっても基幹的な位置を占めており、当市の農業振興計画にも大きな影響を与えるとともに、地域農業の崩壊を招きかねないことを伝えました。

これに対して、市長から「岩手は食料供給基地であり、農業は当市の基幹産業と認識している。いずれ市長会、町村会の要請としても取上げられるものではないか。要望を受理め検討させてほしい。」との回答がありました。

「農業委員

県外視察研修」

1枚4町歩の

大区画圃場に嘩然

合併後初となる農業委員による
県外視察研修が、昨年の11月6日
〜8日にかけて実施されました。
特に印象に残った「ハーネス河合」
について紹介します。



アメリカ製の大型トラクター

この組合は、福井市河合地区に
あり、平成11年9月に設立され、
面積147ヘクタール、参加戸数103戸
で構成され、農地は九頭龍川に隣
接した平坦地にあります。

第一回目の圃場整備は昭和40年
代に一区画区30aで行われました
が、その後九頭龍川の浚渫と合わ
せて、県から流域の圃場再整備計
画が提案され、平成9年に組合の
母体となる3集落からなる「河合
地区営農推進委員会」が設置され
ました。

当初は1区画1町歩の提案で
あったが、同委員会では将来的に
米価が1俵60kg1万円になっても
経営が成り立つよう、さらなる効
率を求め、1枚でその4倍の4町
歩圃場にしました。一枚の大きさは
200m×200mで4町歩です。見渡
す限り広々とした圃場でした。



水稲直播栽培用の大型レーザーレベラー

そこでは、1台約5千万円もす
るアメリカ製超大型トラクターや、

国産の汎用型コンバインによる乾
田直播を中心とした水稲栽培が行
われており、低コスト化が図られ
ていました。また、品種は販売価
格の高い「コシヒカリ」が中心で、
経理は一元的に管理された協業経
営となっていました。

今後の課題としては水稲直播栽
培による収量向上・収益増加、転
作田でのソバ、大麦その他の作物
の収量収益アップ、機械の維持修
理・更新などが考えられました。
総じて大変良い研修になりました。
の活動に活かされると思いました。
取材 南浦 秀山編集委員長

コンニャク作りで

地域おこし

今回は、東山町長坂大木部落で
コンニャク作りをしている「お
せっかいや」の代表鈴木洋子さん
にお話しを伺いました。

約6年前から作り始め、立派な
調理場が完成したのは平成17年の
秋だそうです。

現在6名で、種まきから収穫、
加工、販売までおこなっています。
10月末から翌年5月までの限定
販売で、主な販売先は東山産直セ
ンター、Aコープ東山・大東店と
のこと。化学調味料や防腐剤を使

用していないため、賞味期限が一
週間と短いので遠方への出荷がで
きないのが悩みの種だそうです。
今年から栽培面積を10aに増やし、
売り上げ向上を目標に頑張りたい
と話しておりました。



「おせっかいや」の皆さん

今後のご活躍を期待します。
取材 伊藤 守人編集委員



千厩地域農業委員 地域内農地パトロール実施

12月中旬、千厩地域内の9箇所の農地についてパトロールを実施しました。

その中で、特に面積が大きかったのは、昭和54年に補助事業で造成したりんご園であり、6haほど遊休化していました。

その原因は、りんご経営の悪化から脱退する者もあり、現在の耕作者もりんご生産から、和牛生産に変わったことにより、遊休化が進んだものであります。

これを受け、1月中旬にその解消を図るため、耕作者をはじめ、農業委員、地元関係者、農林センタ―職員を交えた協議がおこなわれました。



千厩地域農業委員による農地パトロール

耕作者としては、畜産経営の拡

大・安定のため、飼料確保を目的に、自力で同園地の草地化を図るという意向でしたが、補助事業や中山間地域等直接支払制度についても検討してみたところ、現段階では対象にならないことが判明しました。



パトロール後の遊休農地解消に向けた協議

取材 千葉 太郎編集委員

安心安全の地場産品を提供

農事組合法人「美の郷」(NPO法人)

一関のシンボルである須川岳を西に仰ぎ、風光明媚な一角にある「道の駅蔵美溪」を紹介します。

「美の郷」は、平成13年4月に農事組合法人として設立され、組合員98人でスタートしました。



お客様で賑わう「美の郷」

野菜は朝取りの新鮮さをモットーとし、四季折々の山菜やきのこ等の地場産品や、手作りの漬物やお菓子、弁当類が所狭しと並べられております。

「レストランペタン君」では、その名前のとおり餅料理をメインとし、もち本膳を始め、お客様の好みで選べるお好み膳や、餅付きソバ、うどんのセットや丼物にラーメン類など取り揃えております。

中でも人気なのは、毎月第四金曜日に行われる「餅バイキング」です。8種類の具を用意して、お客様の好みによって切って差し上げるシステムになっており、毎月遠方よりお出でになるお客様で賑わっております。

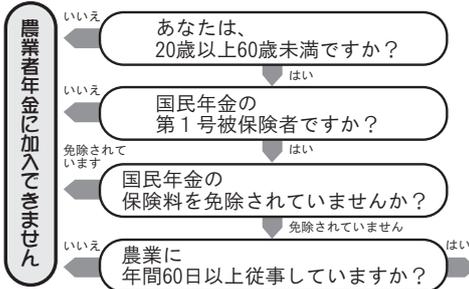
農業者年金に 加入しましょう

幸せな老後には「健康」「友達」「自由に使えるお金」が重要です！

国民年金受給だけでは1人あたり1ヶ月に6万6千円にしかなりません。

(注) 40年間保険料を支払った場合。(社会保険庁HPより)
農業者年金に加入し少しでも多く年金をもらいましょう。

●あなたは農業者年金に加入できますか？



取材 佐藤 てる子編集委員



人気のもち本膳

◎農業委員会からの お知らせ

①転用許可証の交付時期が遅れます。

・3月分の申請から、転用許可証の交付時期が遅れることになりました。

理由は、これまで県の判断で5千㎡未満の転用事案並びに、一時転用に係る転用事案及び植林に係る転用事案を、県農業会議に諮問せず許可証を交付していたものを、諮問を経て交付することに変更されたことから、交付までの日数が20日程度遅れる事になりました。

②農地利用集積貸借の申請変更について。

・4月分の申請から、利用集積貸借の添付書類が一部省略できることになりました。

これまで求めていた「課税証明の写し又は資産証明書」は添付が不要になりました。

お問い合わせは一関市農業委員会迄

電話25-6591

佐々木利夫委員 農業委員功労賞受賞する

当市農業委員である佐々木委員は、21部の全国農業新聞を普及し地域の情報活動の推進に取組んだことから、昨年11月16日開催された「第51回岩手県農業委員大会」で、農業委員功労賞を受賞されました。



受賞された
佐々木利夫委員

「全国農業新聞」を 購読しませんか

この新聞は、農業委員会系統組織が農家の皆さんに常に新しい農業情報をお届けする農家のための情報誌であります。購読を希望される方は地域の農業委員または、農業委員会事務局までお申込下さい。

○毎週金曜日発行 購読料金

月600円

編集後記

在任特例の任期1年が終了し、80人から48人体制に変わり少数精鋭でのスタートで半年になりました。

本年は、昨年の寒波大雪と打って変わって、地球規模の暖冬異変、各地で雪をあてにしたイベントも縮小やら、果ては中止・・・。

野菜価格も暴落し、産地では生産調整に追われ、丹精込めた野菜もトラクターに踏みじられて無残になり、消費者からは、「もったいない、もったいない」の一言一言、何か良いアイデアがないかと農林水産省も重い腰を上げた。生産者、消費者の知恵で何とか生かしたいものです。

また、本年から、「品目横断的経営安定対策」等の農政改革が本格的に始まろうとしています。そうした中で日豪FTA交渉が開始されます。

こちらも目が離せない状態です。米麦、乳製品牛肉など重要な品目の扱いが争点となり、関税撤廃に

なれば、日本農業は壊滅しかねない」と農業関係者は大変危惧しています。農業委員も生産者も一丸となつて、これらの問題に取り組みでいきたいものです。



「農委だより」編集委員会のメンバー

- 農委だより編集委員会
- 編集委員長 南浦 秀山
- 副編集委員長 伊藤 守人
- 編集委員

- 佐藤てる子、千葉 太郎
- 熊谷 輝夫、熊谷 睦月
- 畠山比佐夫、小野寺弘行

